

# 平成24年度社会貢献プロジェクト

## 大学院生によるつくば市近隣の小・中学生を対象とした野球教室の実施

川村卓(体育系 准教授) 金堀哲也 小倉圭 矢野健太郎(筑波大学大学院)

### 1. 背景

つくば市の少年野球の実態は、指導者数の減少や練習場所の不足などの理由により、チーム練習は土日および祭日に限られるなど十分な練習時間を確保できていないのが現状である。そのため、少年野球関係者から、平日に子供たちに練習をさせてほしいとの要望が多々あった。これらの要望に応えるため、2010年度より、筑波大学大学院でコーチング学を専攻している大学院生を指導者とし、つくば市近隣の子供たちを対象に本教室を開催する運びとなった。

本野球教室は、指導に携わる学生にとって指導経験を積み新たな研究課題を発見する機会となるとともに、子どもの運動経験が減少している現代社会において、多様な運動を行う機会を提供し、子どもの健全な発育発達の促進および社会性の向上に貢献する活動となっている。

### 2. 目的

本教室は、子供たちの野球をするための練習時間や練習場所を確保することはもちろんのこと、子どもの運動機会を確保し健全な発育発達を促進すること、規律意識やコミュニケーション能力などの社会性を養うことも目的としている。

### 3. 実施内容および成果

本活動は、子どもの運動機会の確保および健全な発育発達の促進を目的とし、地域の子どもたちを対象に週3回の野球教室を筑波大学野球場の傍らで実施している。活動内容は、野球の技術指導はもちろんのこと、対象が多様な運動動作を習得しやすい小・中学生期の子どもであることを踏まえ、野球以外の他競技に触れさせたり、様々な体力トレーニング、身体づくりの運動をさせたりするなど、子どもの順調な運動発達を促すための活動を行った。



室内でのバッティング練習の様子

本活動は、文武両道を実践するため、中学生の参加者を対象に野球の練習後に学習の時間を設けている。学習の時間においても、複数の指導者を学年ごとに分け、数学、英語などの復習を中心に、効率的な学習指導を行っている。学習指導の時間を設けることにより、野球一辺倒にならず勉強にも意識を向け、学業との両立を目指した活動を行った。



学習の時間の様子

また、本活動はコーチング学を専攻する大学院生が指導者を務めるため、指導に携わる学生にとって多様な発達段階の選手に対する指導経験を積み、地域の少年野球の実状を知ることは非常に貴重な経験となっている。本野球教室は、学生が指導にあたるに伴い新たな研究課題を発見する場ともなっており、小・中学生期の選手を対象とした研究が少ないコーチング学分野においては、そこで得られた成果は貴重な成果になり得る。さらに、研究の成果を現場に即時にフィードバックすることができ、指導内容の質の向上はもちろんのこと、野球のコーチング分野で急務の課題となっている体系的な組織、一貫指導プログラムの作成のためのモデルとなる、非常に重要な役割を担っている。

本活動は2010年度から行っているが、年々様々な地域からの参加希望者が増え続けており、活動当初は小学生のみ数名の参加者で週1回の活動であったが、現在は参加者が37名となり、小学生を対象とした教室を水曜日に、中学生を対象とした教室を月曜日と木曜日に行い、合計週3回の活動を行っている。そのため、年代に応じた指導が可能となった。

	小学生	中学生	計
2010年度	7	0	7
2013年度	13	27	40

本野球教室参加人数の推移

また、活動が進むにつれ用具等が充実し、さらに、指導をサポートする大学院生の数が増えたことで、教室開始当初に比べて指導の質が向上した。



ピッチング指導の様子

### 4. 今後の展望

2010年度から行っている野球教室は、参加者が大幅に増え続けていることにより教室開催日も増加し、また、用具の充実、指導の質の向上などにより活動が拡張してきている。一方で、発達段階の異なる幅広い世代を対象とすることとなったため、年代別による効率的な指導や安全面に配慮するため、グラウンド利用時間の確保など指導体制の整備を進めていくことが必要である。また、本野球教室のホームページを作成し、参加者の効率的な確保や活動内容などの発信を行い、今までにも増して地域に活動をアピールしていく予定である。さらに、地域の小・中学生を対象とした野球検定の実施や、つくば市50周年事業との共同計画なども計画している。